

# 国語科学習指導略案

1年2組 26名 指導者 野間 なつき

本授業では、以下の検証を行うものである。

「見える図」を活用しながら、「大切な宝物」発表会で話すことを整理したり、「話し方名人」や「聞き方名人」を意識したりすることで、話すこと・聞くことの土台をつくることができたか。

## 1 単元 大事なことをおとさずに宝物を教えよう 「たからもの はっぴょうかいを しよう」

### 2 指導計画 (総時数5時間)

過程	主な学習活動 【評価規準】	時間
課題をつかむ	1 教師のモデルを聞き、学習計画を立て、学習の見通しをもつ。 「たいせつな たからもの」 はっぴょうかいを しよう。 【関：自分や友達の大切な宝物について、話したい・聞きたいという思いをもち、自分の大切な宝物を話したり、友達の大切な宝物を聞いたりする活動に見通しをもちながら、学習計画を立てている。】	1
情報をもとに考える	2 『「たいせつな たからもの」 はっぴょうかい』をするために、教師のモデルを参考にしながら、自分の宝物について話すことを整理する。 3 ペアで相談するとき、全体で発表するときの話し方を比較し、発表の仕方や聞き方を考える。 4 宝物の大切さが伝わるような発表にするために、グループで発表の練習をする。 【話：モデルを参考に、「見える図」を活用しながら宝物を発表するために必要な事柄を集め、観点に沿って話すことを整理している。】 【話：二人組で相談するときや全体で発表するとき、それぞれに適した声の大きさや言葉遣いで話している。】 【話：「話し方名人」や「聞き方名人」を参考にしながら、相手に聞こえる声でゆっくり話したり、話の大事なことを落とさずに聞いたりしている。】	1 1 1 (本時)
主体的に表現する	5 『「たいせつな たからもの」 はっぴょうかい』をする。 【話：相手に聞こえる声でゆっくり話したり、話の大事なことを落とさないように聞いたりしている。】 【言：言葉には、事物の内容や自分の経験を伝える働きがあることに気付き、宝物についてのやり取りを楽しもうとしている。】	1

### 3 本時 (3/5)

#### (1) 目標

ペアで相談するとき、全体で発表するときの話し方を比較し、発表の仕方や聞き方を考えることができるようにする。

#### (2) 評価規準

ペアで相談するときや全体で発表するときの声の大きさや言葉遣いを考えて話したり、話の大事なことを落とさずに聞いたりしている。 【話す・聞く能力】

#### (3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では、前時を振り返り、「見える図」で整理したことを確認させる。また、教師のエラーモデルから、発表会でどのように話したり聞いたりすればよいかという問題意識をもつことができるようにする。

「調べる」過程では、まず、ペアで相談するときと全体で発表するときを「見える図」を活用しながら比較することで、時や場に応じた言葉遣いや話す順序について気付くことができるようにする。次に、比較したことを基にして、発表原稿を仕上げていくことで、丁寧な言葉遣いや話す順序に気を付けた発表ができるようにする。さらに、「話し方名人」や「聞き方名人」を確認することで、発表の内容だけでなく、声の大きさや視線などの四つの「話す能力」を意識したり、話の大事なことを落とさずに聞いたりすることができるようにする。

「まとめる・生かす」過程では、発表会での話し方や聞き方について確認し、ペアで発表会練習をすることで、発表に自信をもつことができるようにする。また、次時ではこれらの学びをつないで、グループで『「たいせつなたからもの」 はっぴょうかい』をしていくことを伝え、活動への興味・関心を高めるようにする。

(4) 本時の展開

□ 重点化するスキル [ ] 子どもの意識 ○ 指導の手立て ※ 評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	10	1 前時までの学習を振り返る。 ( ・ 宝物について、見える図でまとめたよ。 ・ 友達にどんなふうに発表したらいいのかな。 ) 2 教師の宝物の発表を聞く。 ( ・ みんなの前で発表するときも、ふつうの話し方でいいのかな。 ・ 話す順番を変えた方がわかりやすいな。 ) 3 学習のめあてを確かめる。 はっぴょうかいでは、どのようにはなしたりきいたりすればよいだろう。	○ 学習計画表や掲示物を使って、前時までの学習を振り返ることで、本時の学習に見通しをもって取り組めるようにする。 ○ 教師が発表のエラーモデルを見せることで、どのように発表すればよいか問題意識がもてるようにする。 ○ 「見える図」を活用して比較することで、時と場に応じた話し方や聞き方を視覚的に捉えることができるようにする。
調べる	30	4 ペアと全体での発表の仕方や聞き方を比較する。 ( ・ ペアで相談しているときは、ふだんの話し方だな。 ・ 発表会のときは、丁寧な言葉を使っているよ。 ・ 「宝物について」と「わけ」の順番で話しているよ。 ・ 発表している人の方を向いて聞いているな。 ) 5 発表の仕方に気を付けて原稿を見直す。 ( ・ 「です」「ます」をつかっていたいねいな言葉で話したほうがいいな。 ・ 宝物とそのわけを順序よく説明しよう。 ) 6 ペアで発表会の練習をする。 ( ・ 丁寧な言葉で、声の大きさや姿勢に気を付けて発表しよう。 ・ 終わりまで相手の顔を見て聞こう。 ・ 宝物を見せながら話すといいな。 )	※ ペアで相談するときと、全体で発表するときの声の大きさや言葉遣いを考えて話したり、話の大事なところを落とさずに聞いたりしている。 ○ ペアで相談するときと、全体で発表するときの話し方を比較することのできている子どもには、聞き方についても考えることができるようにする。 ○ ペアで相談するときと、全体で発表するときの話し方を比較することのできていない子どもには、文末表現や話している内容に着目させ、違いを見付けることができるようにする。 ○ 比較したことを確認することで、丁寧な言葉遣いや話す順序に気を付けて、発表原稿を見直すことができるようにする。 ○ 発表会での話し方だけでなく、聞き方にも着目させることで、話の大事なことを落とさずに聞くことができるようにする。
まとめる・生かす	5	7 本時の発表の振り返りをする。 はっぴょうかいでは、 ○ ていねいなことばをつかって ○ 「たからものについて」、「わけ」のじゅんばんで ○ こえのおおきさやはやさきにきをつけてはなす。 ○ おわりまであいてのかおをみてきく。 8 次時の学習への期待感をもたせる。 ( ・ 自分の宝物がうまく伝わるといいな。 ・ 友達の発表を聞くのが楽しみだな。 )	○ 「話し方名人」や「聞き方名人」を意識することで、声の大きさや姿勢、速さなどにも気を付けて話したり聞いたりすることができるようにする。 ○ 発表原稿を基にして、その場に応じた声の大きさや丁寧な言葉遣いで発表することができるようにする。 ○ 次時では、ペアからグループへ人数を広げ、たくさんの人の前で発表することへの期待感を高めるようにする。